城西国際大学
地域連携推進センター通信
Center for Regional Collaboration

発行 城西国際大学 地域連携推進センター
千葉県東金市求名1番地
発行日 2024年3月25日
Vol.4

地域連携推進センターとは

地域とともに未来を創造する城西国際大学の地域連携の窓口です。本学の地域に関わる教育研究および社会貢献活動を統括・調整することにより、①産業の振興、観光の振興、②地域の活性化、まちづくり、③健康の増進及び福祉の充実、④地域人材の育成、⑤地域と連携した学術研究、⑥現地学修や生涯教育の6つの分野に関わる活動を支援しています。

2023年度市民未来大学を開設し、公開講座の実施、ライフステージIPE・専門職連携教育、域学共創プロジェクトを実施するなど、各種地域連携活動を行いました。

Contents

1 地域連携推進センター紹介
山武郡市地域連携意見交換会
2 芝山町との連携事業
山武市外国人児童生徒の日本語教育支援
オリーブ産地化応援プロジェクト
3 域学共創プロジェクト
6 専門職連携教育 ライフステージIPE
10 市民未来大学
市原市との観光振興に関する連携
11 公開講座
12 2023年度　主な地域連携活動

山武郡市地域連携意見交換会

地域連携推進センターでは、千葉東金キャンパス周辺の地域の課題解決に向けて近隣自治体との連携を深めるため、2021年度より地域連携意見交換会を定期的に開催しています。

大学、東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町が連携を深めることで、共同で地域が抱える課題を発見し、その共有と解決に向けたアクションプランを検討する場としています。千葉東金キャンパスにて開催し、各自治体からは地域連携の実務担当者を中心に出席しています。

第1回会議（9月25日）では、本学薬学部の2024年度の新カリキュラムについての説明、子育て支援の調査内容についての報告、域学共創プロジェクトで展開している「高齢者のデジタルデバイト解消」に向けた取り組みについて説明をおこないました。各自治体の担当者から本学の地域における教育研究活動に対して、今後の可能性も含めた貴重な意見を頂戴すると共に各自治体が現在抱えている課題について共有しました。山武郡市を学びのフィールドとして学生が活動すること自体が街の活性化に繋がっていて、若者の新たな視点は貴重であるとの意見が寄せられました。

意見交換会は今後も定期的に開催し、官と学の結びつきを活かした地域活性・地方創生活動を展開していきます。

活動紹介

芝山町との連携事業

包括連携協定に基づく、町長と学長の協議を実施
メディア学部生「スカイパークしばやま」ロゴマーク制作

千葉県芝山町　麻生孝之町長

2023年11月30日、本学が包括連携協定を締結している、千葉県芝山町の麻生町長が来学し、杉林堅次学長と今後の連携事業について協議が行われました。

協議の後、メディア学部ニューメディアコースの学生たちが取り組んでいる「スカイパークしばやま」のロゴマーク制作に関して、麻生町長が芝山町の魅力や抱える課題について紹介しました。このロゴマークは、学生チームが作成した約20作品の中から選考を経て、「スカイパークしばやま」の正式なロゴマークとして採用されました。

山武市外国人児童生徒の日本語教育支援

外国人児童生徒に『やさしい』日本語を

国際人文学部　国際交流学科　林千賀教授

千葉県山武市でスリランカ国籍の住民が急増し、児童生徒を受け入れた小中学校が対応を迫られている中、2022年度から国際人文学部国際交流学科のゼミ活動で、千葉県山武市に移住してきたスリランカ国籍児童生徒への日本語支援活動を行っています。

さらに、小学校や中学校の日本語教室支援員や指導教諭たちへの支援も行われており、本学の日本語担当教員が日本語担当者会議で講師を務めるなど、幅広い活動が展開されています。

オリーブ産地化応援プロジェクト

東金オリーブ収穫体験

薬学部　医療薬学科　光本篤史教授

オリーブの特産化を目指す東金市内の畑で、昨年に引き続きJIUの学生約40名が、たわわに実ったオリーブの実を収穫しました。

朝早くから道の駅　みのりの郷東金に集合したのは、薬学部や経営情報学部、メディア学部の学生たちで、生産者の皆さんやオリーブ栽培に携わる地域の皆さんと一緒に、手摘みで一つ一つ丁寧に収穫しました。今年は、収穫できるオリーブの圃場が増え、午後には、市民未来大学「オリーブに親しむ」講座の受講者たちも合流し、収穫を楽しみました。

参加した薬学部生は、日ごろオリーブ関連の研究やオリーブオイルを活用した地中海型食習慣の健康性を学んでおり、JIU Festivalでも「オリーブ産地化応援プロジェクトOlive-ToLiP」ブースを開設し、展示発表やオリーブ関連グッズの制作体験、小豆島ヘルシーランド株式会社の商品販売などを手掛けました。

域学共創プロジェクト

域学共創プロジェクトとは

「域学共創プロジェクト」は、本学の地域基盤型教育の一つであり、大学と地域との協働により地域課題解決に取り組む学生主体の授業です。プロジェクトを通じて街を活性化するとともに、企画力やマネジメント力、創造性を養うことを目的として活動しています。2023年度は8プロジェクトを開講、1、2年生を中心に97名が履修し実際に活動を行ないました。

各プロジェクトの活動について、2024年2月には、東金ショッピングセンターサンピアにて報告会を実施させていただき、多くの方に足を運んでいただきました。報告会では集大成として今までの活動や結果、今後の展望などを報告し、2023年度の活動は終了となりました。

【最終発表会アンケート結果】

最終発表会ではアンケートを実施し、46名の方からご回答いただきました。
項目が多数だったにもかかわらず、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

●性別

	件数
男　性	35
女　性	10
無回答	1
計	46

●年齢

項目	件数
20代以下	7
30代	10
40代	8
50代	9
60代	1
70代	8
無回答	3
計	46

●参加満足度

項目	件数
満足	19
やや満足	13
どちらでもない	1
無回答	13
計	46

●評価（全体、最高4）

項目	ポイント
主体性	3.16
協働性	3.20
解決力	3.08
活性化	3.12
企画力	3.21
創造性	3.01
発表力	3.03
トータル	3.11

●自由記載（抜粋）

- 学生のすばらしい活動が良く分かった。もっと多くの活動を地域でやってほしい。
- 健康増進やイベントなど、地域を盛り上げる活動を行ってほしい。
- スクリーンが小さく見えにくかったので、2つ使ったほうが良いと思う。
- 観光力up、特産物発掘による商品開発、地域コミュニティーupに取り組んでほしい。
- 学生の知恵を集めた発表会であり、もっと知ってもらえるように広報してほしい。

障害者の「生きる」に寄り添う コミュニティケア

担当教員：伊賀聡子（看護学部看護学科）、太田幸雄（看護学部看護学科）、森山拓也（福祉総合学部福祉総合学科）

本プロジェクトは、地域で生活されている障がいのある方々の「生きる」に寄り添い、コミュニティを通したケアの実践、地域共生社会の実現を目的としています。

「地域との繋がりに乏しい」現実を抱えた障がい者の課題解消に向け、『風のアール・ブリュット×ココロ・ポリリズム　JIU～障がい者の生きた芸術展～（水田美術館）』と『障がいのある方々のハンドメイド作品の販売』の2つの活動を実施しました。

学生たちは、障がいをもたれた方々との関わりを通して、「障がいは、その人の個性である」ということに気付くと共に、自身の障がい者への偏見に気付き、障がい者の「生きる」に寄り添う姿勢が養われました。学生は、このような機会を増やすことが障がいをもつ方の自己実現の第一歩であると感じ、活動の必要性を実感しています。

また、本プロジェクトを通して、障がいをもたれた方々にも変化がみられました。ひきこもり状態だった方が活動に参加する姿、未来への希望を抱く姿など、学生との関わりが生んだ結果です。まさに、障がい者の「生きる」に寄り添うことで、コミュニティケアが実践され、地域共生社会実現に向けた一歩となりました。

道の駅と大学

担当教員：金子祐介（観光学部観光学科）

本プロジェクトは、東金市役所（以降、東金市）と連携し、東金市が運営する道の駅・みのりの郷東金を基点とし、下記の三点を目標に、観光振興に寄与するプログラムづくりを実施しています。

(1) 地域のネットワークを構築すること
(2) 地域経済に寄与する観光について検討すること
(3) 通年観光に寄与する地域の仕事を生み出すこと

2020年、2021年度は、まち歩きイベントを実施、2022年度以降は6ヵ年計画でサイクルツーリズムを推進していきます。

本プロジェクトに参加した学生が、地域の観光に寄与するインフラづくりを行政の方々と検討していけたことは、学生たちにとって貴重な機会となりました。とくに、本年度の企画を介して、学生たちは、地域の中に眠る観光資源を掘り起こし、その資源を、行政の方をはじめ地域の方々、観光客に魅力ある情報として共有できたのではないのかと考えます。また、学生たちは、そうした調査能力や情報伝達能力を身につけただけでなく、どうやってそうした観光資源を「面白い企画に昇華するのか?」ということに苦心し、企画を生業にするための方法論を構築できたプロジェクトとなりました。

今後の大学での学びを介して、今回の成果を地域の人たちとともに運営するシステムに昇華してもらいたいと考えます。

山武市在住高齢者のデジタルデバイド 解消プロジェクト

担当教員：四十竹美千代（看護学部看護学科）、山村重雄（薬学部医療薬学科）、竹内弥彦（福祉総合学部理学療法学科）、中野元（看護学部看護学科）、安田孝（福祉総合学部福祉総合学科）、山根主信（福祉総合学部理学療法学科）

昨今、社会のデジタル化に伴い、多くの高齢者が最新の情報から取り残されており、高齢者のデジタルデバイド（情報格差）が社会において大きな問題となっています。

そこで、本プロジェクトでは、インターネットに慣れ親しんだ学生がデジタルデバイドの現状を把握し、さらにデジタルスキルを教えるための知識、及び、技術を獲得し、高齢者にデジタルスキルを享受することでデジタルデバイドを解消することを目的としています。

学生は、スマートフォンを日頃から活用しているが、いざ高齢者に教えるということになった際には、「どのように教えるとよいのか?」、また、「限られた時間内で何を教えたらよいのか?」ということが、わかりませんでした。ただ、外部講師からの講義を踏まえ、主体的に考えることができるようになったことは一つの成果と考えます。とくに、プロジェクトを開始した当初は主体的に参加している学生の姿はみられなかったのですが、スマートフォン教室の最終日に実施したキャンパスツアーでは、各自が生き生きと内容を考え、高齢者と愉しくキャンパス内を歩いていたことが好ましい光景であると感じました。また、本プロジェクトを通して、高齢者のデジタルデバイドの現状を把握し、高齢者に必要なことを考えることができたことは大きな成果だと考えます。

田間マラソン

担当教員：酒井健介（薬学部医療薬学科）

本プロジェクトは、東金市田間地区で「住民の融和・世代間交流を深めるため、誰でも気軽に参加できる地域活動」として開催されている「田間物語　リレーマラソン」に参加し、地域の活性化に求められる人的資源や物理的資源について考えます。

また、このような地域活動が住民同士のコミュニティの形成やソーシャル・キャピタルの醸成に及ぼす影響について考えるとともに、このような地域住民同士の繋がりが「健康（感）」に及ぼす影響についても考えます。

本地域活動に学生が参加し、地域の幅広い世代の方々とコミュニケーションを積極的にとることで、主体的・能動的態度を学ぶことができたのではないのかと考えます。とくに、イベント当日は、一人ひとりが決められた役割を担ったこともあり、事前の準備の重要性を認識するとともに、トラブル等が起きた際の対応力についても学ぶことができました。

そして、このような地域活動を盛り上げ、支援していくことが、地域住民の「健康」を支える上でも重要であると感じることができ、学生にとっては大きな成果となりました。

心食体地

担当教員：鈴木明子（看護学部看護学科）、倉田新（福祉総合学部福祉総合学科）、伊藤将子（福祉総合学部福祉総合学科）、川瀬力也（福祉総合学部福祉総合学科）

本プロジェクトの目的は、コンセプト「心食体地（心は体と食事と環境が創る）」の観点から保育プログラム案の作成・提案に活かすことです。

また、学生はじめプロジェクトに関わる方々が、SDGs「３：すべての人に健康と福祉を」、「４：質の高い教育をみんなに」、「１４：海の豊かさを守ろう」、「１５：陸の豊かさを守ろう」、「１７：パートナーシップで目標を達成しよう」らが、関連する主なSDGsの目標となっています。

受講学生は、本プロジェクトを通じて、SDGsの複数の目標の実現に取り組みました。とくに、参加したメンバーと協力し、陸や海の豊かさを守ることに関わり目標を達成するためにいろいろなことを実施しました。例えば、千葉県の海岸のビーチコーミングを行ったり、本学キャンパス内に自生するヤマモモの実を使ったジュースを作ったりし、身近な自然の豊かさを実感することが出来たと考えます。そして、環境を守り・活用していく活動が重要であることを再認識したようです。

また、学生はこれらの経験を活かし、「東金国際こども園（R6年開園）」との連携においても、自らが提案した教育環境プログラム等を実施してゆくこととなりました。

地域に住まう人々の健康増進と 障害予防に向けた実践活動

担当教員：安齋紗保理（福祉総合学部理学療法学科）、大杉紘徳（福祉総合学部理学療法学科）

本プロジェクトは、『健康増進・障害予防』に焦点を当てています。地域に住まう人々を対象とした体力測定や地域の人々と一緒に健康課題について話し合うグループワークなどの実践活動を通して、「地域にはどのような健康課題があるのか」「健康課題を解決するためにどのような取り組みが必要なのか」を考えています。これらの活動により、地域における健康増進・障害予防に向けた自助・互助活動の促進を目指しています。

プロジェクトに参加した学生は、健康に関する身体機能測定の実施能力を身につけ、異なる世代の方々とのコミュニケーションをとる力も養うことができました。また、運動を実践することについて、日々の生活を含めた多角的な視点から考えることができるようになりました。プロジェクトを実施したことにより、地域の方々に対しては、自身の健康について考え、現時点の身体機能を客観的に捉えられ、今後の健康増進活動に取り組むきっかけを提供することができました。

ケア機能のあるまちづくり
学童保育における命を守る「防災かるた」普及活動

担当教員：柚山香世子（看護学部看護学科）、丸山あかね（看護学部看護学科）

本プロジェクトは、未来の担い手である子どもへの防災教育・普及活動を通して、大学生が地域住民との交流による新たなコミュニティづくりについて検討するものです。

また、使用する「防災かるた」には、地域の方々の命を守ろうとする想いが込められており、このような地域の方々と協力した「防災かるた」普及活動を実践し、子どもからご家族へと防災意識を高める働きかけも行っています。そのため、地域に暮らす子どもに合わせた「防災かるた」の作成についても検討しています。

プロジェクトに参加した学生は、「防災かるた」の普及活動での子どもへの働きかけを通して、子どもから家族への啓発行動を引き出し、相手の年代・特性に合わせた関わり方について考え、実践する力を養うことができました。また、他者に防災教育を行う活動は、学生自身の防災意識を高めることに繋がっています。実際の活動体験から、配慮の必要な方々の存在に気づき、相手の想いや苦労に寄り添う姿勢も引き出されていました。さらには、本防災教育プロジェクトに関わる全ての方が、防災への備えを心がけ、災害時に主体的に防災活動を担っていくとともに、地域の一員であるという連帯意識を持つ事にも繋がっていくようにと考えています。

JR東日本千葉支社 × JIU「着地型観光創造プロジェクト」

担当教員：山本剛（観光学部観光学科）

本プロジェクトの目的は、「観光客が潜在的に抱えるニーズ×地域の公共交通課題」を現場で観察し、考えることです。現在の国内旅行の主たる交通手段は自家用車となりますが、公共交通という選択肢がなければ、地域に集客できる観光客が減るからです。

一方、地域の公共交通の維持は、人口が減少する社会のなかで、現状を維持することが厳しい状況になってきています。この社会課題に対し、「地域について学ぶ者が貢献できることは何か?」ということを学生自身で探ることも目的です。

本プロジェクトは、観光ビジネスに「直結」する現場でしか提供できない学びを得ることです。学生は、その過程で、「現場力」「取材力」「調査力」と、チームで仕事をする「協働力」、取材対象への「質問力」、それをまとめて他者に伝える「発信力」を習得してきました。

学生たちは、それらを活かし「観光客への情報提供」などホスピタリティを養う過程で、観光業界のみならず社会人として必要な基礎的な力も身につけることができたと考えます。

城西国際大学 専門職連携教育
ライフステージIPE

JIUは地域の人々の生活を支える人材の輩出を目指し、2012年に専門職連携教育IPE99をスタートしました。10年の時を経て対象者の多様化が進む中、誕生から看取りまでのライフステージ全般を支援できる専門職を育成するため、2023年、JIU専門職連携教育は「ライフステージIPE」に生まれ変わりました。

一人ひとりの異なる価値観に配慮して健康課題を解決していくためには、専門職同士がお互いの顔を見て意見交換し、共通のゴールに向かって協働することが求められます。学生時代に専門を超えた関係を作る経験を提供するのが「ライフステージIPE」です。JIUは、さまざまなライフステージで課題に直面した人々を支援することができる医療・福祉系専門職を育成します。プログラム運営に対する地域の方々のご支援・ご指導に感謝いたします。

IPE99 ライフステージIPE A　テーマ『発達課題・健康課題を通して対象を理解する』

【目的】

人の一生を発達段階別に身体的・心理的・社会的側面から理解し、ライフサイクルからみた生涯にわたる発達の課題を学ぶ。そして、健康課題をもつ人の講演を拝聴し、専門職者へのニーズを知る。

【到達目標】

- ライフサイクルからみた生涯における発達の課題、発達を視野に入れた支援が理解できる。
- 健康課題を持つ人の生活や専門職へのニーズを理解できる。
- チームケアを担う自身の目指す専門職の専門性への理解、他職種の専門性の理解を深める。

【受講生】

福祉総合学科(50 名)、看護学科(110 名)、
医療薬学科(52 名)

【担当教員】

(福祉総合学科) 橋本理子、森山拓也、林和歌子、茆海燕
(看護学科) 宮澤純子、柚山香世子、島村龍治
(理学療法学科) 安齋紗保理
(医療薬学科) 中村洋、溝口優、北村昭夫

【プログラムを終えて】

患者講演会では「利用者の希望をかなえるために、多職種間で情報を共有し協働することが不可欠だと知った」などの感想が寄せられ、対象者の気持ちを理解し、支援するための行動を自覚する貴重な機会となりました。

最終日のチームビルディング演習では、学科の壁を越えてより高いマシュマロタワーを目指し協力する姿が見られ、今後のIPEの盛り上がりが期待されました。

【スケジュール】

日　時	講　義　内　容	担　当
4/　7(金)	発達・障害発達とは何か / 親になることとは / 胎児期・新生児期の発達	宮澤純子
4/14(金)	乳児期から幼児期前期の身体的形態的発達と精神的・社会的発達	柚山香世子
4/21(金)	幼児期後期から思春期の身体的形態的発達と精神的・社会的発達	柚山香世子
4/28(金)	成人期成熟期の理解、身体的形態的発達と精神的・社会的発達	森山拓也
5/12(金)	患者講演会　西田江里 氏（社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも）	
5/19(金)	老年期の理解、身体的形態的発達と精神的・社会的発達	林和歌子
5/26(金)	期末試験、チームビルディング演習（マシュマロチャレンジ）	橋本理子・茆海燕

IPE99 ライフステージIPE B | 専門職講演 | テーマ『他職種を理解し、自職種を省みる』

【目的】

専門職を理解する

【到達目標】

- チームケアにかかわる様々な専門職による講演を通して、各専門職の専門性や、他職種から求められているものについて理解する。
- 他職種と自分が目指す職種との違いを知り、どのようにチームとして機能できるかを考え、理解する。

【受講生】

福祉総合学科(28 名)、理学療法学科(70 名)、看護学科(110 名)、医療薬学科(59 名)

【スケジュール】

下の表のとおり各専門職による講演を拝聴した。学生は学びや感想について 3 学科混合のグループでディスカッションすると共にリアクションペーパーを作成し、専門性の異なる他職種との共通点と相違点を検討した。

【担当教員】

(看護学科) 島村龍治
(福祉総合学科) 橋本理子、茆海燕
(理学療法学科) 安齋紗保理、大杉紘徳
(医療薬学科) 中村洋、北村昭夫

【受講生の学び】

- 他職種と連携することによって、複雑な問題への対応や早期発見と予防、質の高いケアの向上に繋がる。円滑なコミュニケーションと情報共有、クライエント中心のアプローチ、相互理解、協働を促進することが大切である。
- 専門職連携のチームワークおいて大切なことは相手の職種の専門性を理解し、お互いに尊重しあい、対等な立場で意見や情報を交換していくことと、積極的に新たな知識を取り込み、常日頃学んでいくことが大切である。それぞれの専門性を理解し、コミュニケーションを取り、専門職の間をうまく取り持てる、視野の広さと調整能力が必要であることが分かった。

【プログラムを終えて】

対面での講演会にご協力をいただきました講師の先生方に心より御礼申し上げます。

学生は、顔を合わせて話し合うことに緊張もありましたが、繰り返すとグループが話しやすい雰囲気へ変化し、積極的に意見を伝えることができました。各専門職にどのような強みがあるのかを知り、多職種連携で大切なことを考えました。

【スケジュール】

日　時	専　門　職	講　　師
6/16(金)	介護福祉士	片岡信明氏（ゆりの木苑）
6/23(金)	薬剤師	笹原將生氏（ササハラ薬局）
6/30(金)	社会福祉士・精神保健福祉士	赤堀久里子氏（NPO法人リンク）
7/ 7(金)	理学療法士	杉山楓氏（こぱんはうすさくら新松戸教室） 鈴木雄大氏（千葉西総合病院）
7/14(金)	看護師	小柴千鶴氏（さんむ医療センター）
7/21(金)	介護支援専門員	今西航地氏（株式会社コイノニア）

IPE99 ライフステージIPE C | 創作事例・模擬事例検討ワークショップ | テーマ『専門性の主張・対立・調和を理解する』

【目的】

創作事例WS

事例を自由に創作し、『人の人生とは何か』、『個別性とは何か』について考える

模擬事例検討WS

事例に対する支援の道筋を探るプロセスを疑似体験し、自職種の特徴について考える

【到達目標】

創作事例WS

- 未完成のケースをもとにその背景やストーリーを自由に創作することによって、『人の人生とは何か』について考え共有できる。
- 多数の個人が創作したそれぞれのストーリーの違いを知り『個別性とは何か』について考察できる。

模擬事例検討WS

- 模擬事例の支援計画を作成し、本人の望む生活に向けた支援の道筋を探るプロセスを疑似体験できる。
- 各学科において考えられた支援計画を共有することで、他職種の特徴や視点の持ち方などの相違点を知り、自職種の特徴や強みを発見できる。

【受講生】

福祉総合学科 3・4 年生(13 名)、理学療法学科 3 年生(76 名)、看護学部 3 年生(17 名)、薬学部 3 年生(48 名)

【スケジュール】

創作事例WS

6月9日（金）～16日（金）：
創作事例（学科内のグループワーク）

模擬事例検討WS

6月16日（金）～28日（水）：
支援計画の作成（学科内のグループワーク）
6月30日（金）～7月7日（金）：
学科合同での支援計画の作成
(学科混合のグループワーク)
7月14日（金）：学科混合で話し合った支援計画の発表

【担当教員】

（福祉総合学科）森山拓也
（理学療法学科）安齋紗保理
（看護学科）島村龍治
（医療薬学科）溝口優、中村洋

【受講生の声】

- 実際に他職種と連携し、事例について解決していく過程を学ぶことができてよかったです。
- 様々な人達と話をすることができた。また、専門職によって意見や知識などが違うことが分かりました。それと同時に、自分自身の目指す職種についての知識不足を感じました。
- 他学部の方と一緒に授業を行うことが出来る貴重な授業だと思いました。 他の学部や同じ学部の他の人の視点を見ることができ、面白かったです。

【プログラムを終えて】

複数の学科が一つの症例について合同で解決策を話し合うことで、将来の臨床現場でも重要である多職種間の連携を擬似的に体験しました。職種の違いによる視点や支援方法が異なることを感じたようです。各職種の考えを合わせて支援を考えるという多職種連携の重要さと難しさを知る良い機会となりました。

IPE99 ライフステージIPE D | 実践IPE | テーマ『地域の医療福祉におけるチームケアを理解する』

【目的】

地域の医療福祉の場で利用者の立場からみた連携・協働した支援を学ぶ

【到達目標】

- 利用者のニーズに沿うケアサービスが提供できるようになるために、連携・協働の必要性を理解する。
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域の知識・技術・態度を活用する。
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域と他の専門領域との共通性を理解する。
- 利用者に沿った支援計画を立てるために、地域特性と利用者のニーズを理解する。

【受講生】

福祉総合学科4年7名、理学療法学科3年10名、
看護学科4年9名、医療薬学科5, 6年10名

【スケジュール】

- 事前学習　8月22日（火）：
  チームビルディング、事前調査
- 実地研修　8月23日（水）～26日（土）：
  フィールドワーク（在宅訪問、施設訪問など）
- 事後学習　8月28日（月）：
  振返り、実地研修での学びの発表・共有

【実地研修先】

花城医院(山武市)、大網歯科医院(大網白里市)、片貝デンタルクリニック(九十九里町)、おゆみ野総合歯科クリニック(千葉市緑区)、片貝薬局(九十九里町)、きだ在宅クリニック(大網白里市)、みんなのライフサポートクリニック大網(大網白里市)、ヤックスケアタウン千城台(千葉市若葉区)、ハーブランド薬局(柏市)、九十九里ホーム病院(匝瑳市)

【担当教員】

(福祉総合学科) 伊藤将子、橋本理子
(理学療法学科) 安齋紗保理、大杉紘徳
(看護学科) 島村龍治、石田ゆかり
(医療薬学科) 光本篤史、佐々木英久、中村洋、溝口優

【受講生の声】

- 他学部や他学年の人たちとチームを組み、学部や学年の垣根を越えて問題なく後まで取り組めたことに感動した。また、他学部と関わることで他の専門職についてもしっかり理解することができた。
- 他学部のメンバーとチームを組んだことで様々な視点で意見交換をすることができ、とても充実した実習になった。またチームメンバーとも仲良く楽しくできたのでよかった。
- 他の学部と関わることができ、さらに各職種からの視点をもって話し合うことができたことはとても良い経験になったと感じています。また、自身の職種の視点をもってどのようにアプローチしていくべきか身をもって経験できたことも今後に活かすべき経験だと考えます。
- 今回は介護や福祉との連携を見ることができた。介護施設に訪問することは初めての経験だったので、この授業を受けてよかったと思った。
- 普段の実習では見られない他職種連携を学ぶ貴重な体験であったため、将来に役に立てたいと思いました。
- 改めて医療の重要性、複雑さについて理解することができた。医療の進化、患者中心のケアへのシフトが進む中で在宅医療が重要なものだと理解することができた。地域では、地域と支え合うことで、患者さんの健康状態の向上につながると感じた。

【プログラムを終えて】

多職種連携協働の姿を目の当たりにし、参加学生がそれぞれに大切な気づきを持ち帰ってきたことが印象に残りました。貴重な経験を提供して頂いた地域の皆様に感謝いたします。

2023年度 城西国際大学「市民未来大学」

本年度より開設した城西国際大学「市民未来大学」は、大学が共有する知的資源をわかりやすく提供し、地域住民の方に自ら健康を培い、生きがいをもって社会参加していただくことを目的とした一般市民向け教育プログラムです。

2023年度はヘルスプランナーコース9名、健康・趣味・教養コース21名、語学コース16名の計46名が入学し、2年間それぞれのコースで学んでいます。

健康・趣味・教養コース　講座内容

講　座　名	講　　師	講　座　名	講　　師
気軽に毛筆を楽しもう(春)・(秋)	渡邉恵子	世界遺産の不思議と魅力 (春)・(秋)	片岡英夫
更なる健康を目指して	久保田好子	イキイキ健康美容講座	戸田美樹
クラフトバンドで小物やバックを作ってみよう	クラフトバンド エコロジー協会 認定講師	パラスポーツ・ レクリエーションスポーツ体験	石原啓次
オリーブに親しむ	光本篤史	庭園の歴史と見方	多田充
皮膚の健康を守る香粧品	押坂勇志	街歩きに関する講座	金子祐介
健康的な生活のための 運動・栄養	酒井健介	生活と運動	大杉紘徳 安齋紗保理
漢方薬・生薬について	田嶋公人・地野充時 堀江俊治・大原厚祐	AEDを用いた蘇生法及び 日常生活で活用できる救急法	四十竹美千代 中野元・池上萌絵
ソーシャルビジネスを学ぼう	都丸孝之	福祉に関する講座	倉田新・広瀬美和 林和歌子・伊藤将子

市原市との観光振興に関する連携

2023年8月に本学は市原市と『観光振興に関わる連携協定』を締結し、観光学部が中心となり、市原市の若手人材とともに市の関係人口増加と地域の活性化、観光振興を目指しています。

2023年度は観光学部の70人以上の学生が中心となり、千葉県市原市の養老渓谷地区の地域課題解決に向けてクラウドファンディングを実施し、1月20日に返礼品の目玉である養老渓谷ハイキング『ア・サ・ヒ』を実施することができました。

『ア・サ・ヒ』は、紅葉シーズン以外に観光客を呼び込むため、地域の魅力をアピールするための取り組みでした。また、昨年の台風13号からの復興に寄与する取り組みとなるような企画を検討しています。そのため、学生たちは約半年前から地域の若手人材「まちなか先生」や小湊鐵道株式会社、市原市地方創生部などから助言を受け、地元でしか味わえない食事や見どころを調査し、企画を練り上げてきました。

2023年度

公開講座

実施一覧

今年度は東金市、香取市、茂原市、鴨川市、御宿町にて15講座を実施しました。コロナ禍では実施することが難しかった運動の講座も行えるようになり、さらに幅広い講座を提供することが出来ました。講座アンケートではいずれの会場も概ね好評という結果をいただきました。

地　区	日　　時	テ　ー　マ	講　　師	受講者数
東金市	9/5(火)～9/8(金) 17:30～19:30	インターネットスタートコース（Aクラス）	経営情報学部 斎藤紀男	27名
	10/3(火)～10/6(金) 17:30～19:30	インターネット活用コース（Bクラス）	経営情報学部 成瀬健一郎	36名
	10/14(土) 10:00～11:30	手を温めるだけで認知症予防に！！！	看護学部 四十竹美千代	27名
	11/25(土) 10:00～11:30	香りの可能性を探る	経営情報学部 中村智香	20名
香取市	10/24(火) 13:30～15:30	中欧ヨーロッパとハンガリーの事情 ― 過去と現在 そして未来への展望 ―	国際交流学科 KIRALY Attila	12名
	11/21(火) 13:30～15:30	ウクライナ情勢を経済側面から読み解く	国際文化学科 吉岡美愛	10名
	12/19(火) 13:30～15:30	分断の進む世界 ― グローバルサウスのゆくえ ―	国際文化学科 名本光男	11名
茂原市	2024/2/5(月) 14:00～15:30	生涯発達と地域生活	福祉総合学科 広瀬美和	8名
	2024/3/4(月) 14:00～15:30	災害時における避難所生活や介護の工夫 ― 避難所運営ゲームHUGを通して考える ―	福祉総合学科 伊藤将子	25名
鴨川市	9/12(火) 13:20～14:50	健康体力つくり講座：モルックを楽しもう！	経営情報学部 深山元良	9名
	11/25(土) 10:30～12:00	医薬品、医薬部外品、化粧品の違い	薬学部 押坂勇志	14名
	2024/2/3(土) 10:30～12:00	カラダを動かすと脳も元気に？	理学療法学科 大杉紘徳	11名
御宿町	10/18(水) 14:00～15:30	今話題の腸活を考える	薬学部 太田篤胤	16名
	11/29(水) 14:00～15:30	「微生物との共存」― コロナ禍を経験して、 改めて「細菌、ウイルス」との関係性を考える ―	薬学部 平田隆弘	16名
	2024/2/7(水) 14:00～15:30	痛風・高尿酸血症とその治療薬	薬学部 中村洋	12名

2023年度　主な地域連携活動

活　動　名　称	実　施　期　間
麹町警察署広報啓発活動	2023年4月18日
山武市の日本語担当者会議講師	2023年4月～2024年3月
ボランティア養成講座（東金市ふれあいセンター）	2023年6月20日
山武市外国籍の児童・生徒への日本語教育支援活動（日本語交流会）	2023年5月～2024年2月
成東高校との高大連携プログラム「多文化共生」「ヘルスケア基礎」	2023年6月～11月
まちとJIUのつながりプロジェクト『東金フープ物語』動画制作	2023年6月14日
市民公開講座「どうしよう！股・膝の手術」	2023年6月17日
子育て支援ルーム「くじらキッズ」	2023年7月～12月
ホっとステーション in 城西国際大学	2023年7月18日
大麻の危険性伝えるVR動画制作（千葉県警）	2023年8月30日
介護予防講演会「元気に動ける体づくり」	2023年9月27日
健康教室	2023年10月1日・14日・28日・11月3日
東金市在住者の身体機能および認知機能測定会	2023年10月7日、8日
東金オリーブ産地化応援プロジェクト ― 収穫体験イベント	2023年10月16日
麹町災害対策総合訓練	2023年10月18日
パラスポーツ体験を通し共生社会学ぶ（県立松尾高校）	2023年10月24日
フードロスと食生活改善0円弁当チャレンジ	2023年10月18日・11月1日
2023 まちの駅まつり「ローリングストック」展示（みのりの郷東金）	2023年11月23日
「薬物乱用防止教室」（東金市内小学校）	2023年12月（5日間）
「しおさいプロジェクト」体力測定会	2023年12月9日
日韓親子サークルきりんの会「“ことば”をつなぐプロジェクト」	2023年12月11日
地域活性化プロジェクト ― 養老渓谷ハイキング『ア・サ・ヒ』	2024年1月20日

2023年度　連携協定一覧

協　定　先	締結時期	連　携　内　容
市原市	2023年　8月25日	観光振興に関して連携協力を行う。
社会福祉法人生活クラブ	2023年　9月29日	地域共生社会の実現を目指し、人材育成に寄与する。
東金市	2023年10月16日	災害発生時に避難所等として施設を利用する。